



1.大鹿村北川の中央構造線観察露頭。分杭峠から南に流れる鹿塩川が東に屈曲した部分の北岸にあり、露頭面はほぼ東西(右が東)。スケール(20 cm間隔)右側の緑色-灰黒色部が三波川帯、白色粘土脈を含む暗黒色の断層ガウジ帯の中央右寄りを現在の断層面が走る。その左側の褐色部は、破碎・変質した中新世の珪長質岩脈、近くの駐車場から歩道(約100 m)が整備され、案内板も建てられている(27頁第2図参照)。

中央構造線 大鹿村の断層露頭と博物館の展示

赤石山地にいだかれた長野県大鹿村は、北端の分杭峠から南端の地蔵峠まで25 kmにわたって村を縦貫する中央構造線を野外博物館と位置づけて整備するとともに、断層露頭や村内の代表的岩石試料を展示した地質博物館(大鹿村中央構造線博物館)を村の中央部に建設し、一般に公開している(本号25-28頁参照)。(伊那谷自然友の会 松島信幸・地質ニュース編集委員会 佐藤興平・中央構造線博物館 河本和朗)



2.大鹿村中央構造線博物館全景、村の中央部大平原の中央構造線の真上に建てられている。背景の山は鹿塩マイロナイト(原岩は変成岩や花崗岩)。



3.博物館に展示された中央構造線露頭の標本、写真1の露頭から採取された。